

聖和大学論集
第24号A抜刷
1996

絵雑誌「お伽お伽こども」の広告

The advertisements of the pictorial magazine
“OTOGIETOKI KODOMO”

村川京子

絵雑誌「お伽絵解こども」の広告

The advertisements of the pictorial magazine
“OTOGIETOKI KODOMO”

村川京子*

Abstract

This study focuses on the advertisements appearing in the pictorial magazine Otogietoki KODOMO. Otogietoki KODOMO was published from April 1904 to 1911 by Jidoubiikukai in Osaka.

It was the first full colored pictorial magazine published for preschool and kindergarten children in Japan.

The editors were newspapermen of the Osaka Asahi Shinbunsha. Shoukai Kubota took charge of the texts and Akimine Tujimura took charge of the illustrations.

This magazine has several distinctive features. One, is that it contained the first colored illustrated advertisements for young children in Japan. Second, the illustration and copy of the advertisements are refined from the aspect of early childhood education. It should be also noted that the editors did not lapse into excessive nationalism and militarism even during the Russo-Japanese War. They succeeded because they had a real journalistic point of view, and they kept close contact with the kindergarten teachers and young children.

The editors believed that illustrated advertisements were also fun and useful for all of the readers.

We should pay more attention to the influence of illustrated advertisements for children.

キーワード：広告，絵雑誌「お伽絵解こども」，イラストレーション

目的

絵雑誌「お伽絵解こども」は文章を大阪朝日新聞社学芸部記者、久保田小塊、絵を同じく辻村秋峯が担当して、児童美育会¹⁾から1904(明37)年4月に創刊された。1911(明44)年11月

(第8巻第5号)まで全74冊の発行が確認されている。月刊が建前だったが、実際には年10回程度の刊行ペースだった。四六判16ページ、定価五銭、4色一色のかけあわせで、カラー絵雑誌としては日本で最初のものと思われる²⁾。

1) 美育とは美的教育ともいわれ、芸術教育と殆ど同義。児童美育会は「お伽絵解こども」発刊のために創設された。

2) 鳥越信(1993)「お伽絵解こども」『日本児童文学大事典』第2巻 大日本図書 524

* Kyoko MURAKAWA 大学院研究員A 修士(教育学)
〈審査論文〉1996.9.1受稿, 1996.9.30受理

この「お伽絵解こども」は久保田、辻村達編集者の日本の幼児のための絵本を絵草紙、赤本の段階から改良しようという意気込みによって創刊され、様々な試み³⁾をおこなった絵雑誌であり興味深い特徴がある。その特徴の一つは裏表紙に広告を掲載したことである。日本で最初の幼児、小学校低学年対象の彩色絵雑誌に、当時まだ珍しかった広告を毎号欠かさず掲載したこと、それも、子どもを対象とした絵が主体の彩色の広告が出現したことは絵本・絵雑誌の史的研究の上から見逃す事のできないことと考える。

本論では「お伽絵解こども」の広告の表現したものを考察したい。

1. 「お伽絵解こども」の広告の特徴

「お伽絵解こども」の編集者は発刊当初から誌面における「広告」の存在を読者に訴えている。その広告とはどのようなものか。山本武利は広告を次のように定義している。

「〔定義〕 広告とは、広告主の名前を明らかにして、商品、サービス、考えなどを、有料な広告メディアを使って、不特定多数の人々に伝えるコミュニケーション活動である。一般に広告は商品やサービスの需要を喚起するものが多い。しかし、意見や主張などの考えを伝えることも現代広告の重要な活動である（後略）」⁴⁾

日本では明治維新後から広告メディアとして新聞、雑誌が出現してきた⁵⁾。

大阪朝日新聞社は明治20年代には広告収入が全国一の新聞に発展していた⁶⁾。大阪朝日新聞記者である久保田小塊、辻村秋峯は広告制作に関して最先端の立場にいたのである。つまり、広告の機能、効果、あるべき姿についても、広

告主について、広告の取り扱い業務についても十分な知識、情報を得ることが出来たと思われる。

そうした朝日新聞記者としての立場を生かして編集者自ら、幼児と保護者、幼稚園保育者、教育者対象の「お伽絵解こども」という絵雑誌に、広告を創作していることが特徴的である。

「お伽絵解こども」の第1巻第1号(1904年4月3日)の裏表紙には、
「時々このページには美しい彩色印刷の広告を載せます」という予告を、「お伽絵解こども」、「一冊五銭」という広告と兼ねて行っている(図-1)。また第2巻第5号には「本誌独創

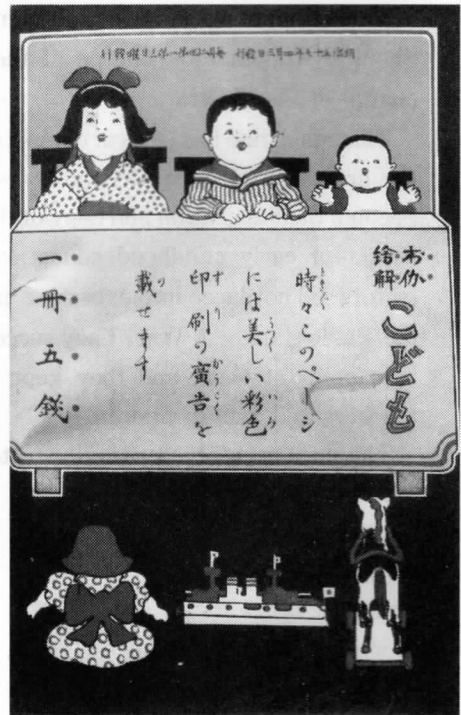


図-1 第1巻第1号 1904.4.3発行

の意匠広告は御覧の如く美麗にて面白き故繰返し永く家庭に楽しまるるなど非常に利益あ

3) 第4巻第7号に「現今の我国に於て一番最初に生まれ出た新式お伽絵本です(中略)。特別に注意して飛びぬけた良い紙を用いてあります(玩具にしても破れぬよう) ミシン綴も第一番に用いたのです(ハリガ子綴で玩具にした時危いから)」と記している。〔ルビ略〕
4) 山本武利 (1991) 「広告」石川弘義他編 大衆文化事典 弘文堂250
5) 山本武利 (1984) 広告の社会史 法政大学出版局
6) 同上 26

り」という宣伝を広告の欄外に記載している。この一文は度々掲載されており、編集者の広告への並々ならぬ意欲と自信を示している。広告料も第2巻第1号奥付に明記しており、「彩色摺一頁金拾五圓，半頁金八圓」であった。

「お伽絵解こども」の最初の広告は、第1巻第2号（1904年5月3日）の脇田成真堂の「ベビーはみがき」である（図-2）。意匠は、幼児が



図-2 第1巻第2号 1904.5.3発行

洋服にエプロンをつけ、靴をはき、海軍のマークの帽子をかぶり、おもちゃのラップを肩からかけて、ラケットを持っている。頭上にはニコニコ笑っているボールというイラストは大変モダンで、西洋の雑誌の挿し絵を参考しているようである。幼児の持つラケットには「ベビーは歯磨の大将であります」というコピーがある。イラストには舶来、最新流行のものを描き、コ

ピーは日露戦争の最中の世相を映している。広告商品の練歯磨き自体が文明開化の象徴である。日本初の練歯磨は1888（明治21）年に資生堂が発売し、その後、歯磨きの会社は広告の有業者となった⁷⁾。これは原本を見ることの出来た「お伽絵解こども」の70冊の中で13冊に脇田成真堂の「ベビーはみがき」、矢野芳香園の「ツバメ歯磨」⁸⁾、小林富次郎の「ライオンはみがき」の広告が出されている事からもその傾向がわかる。しかし、当時、幼児の歯磨きの習慣はまだなかったであろう。「お伽絵解こども」は「育児と衛生」をテーマに啓蒙的な記事を度々載せているが、第2巻第10号（1906年1月1日）は次のようなものとなっている。

「口中わいつも清潔にしなればなりません。食物の残滓が止まると甚く歯を害します。それゆえ食物を食べた後にわ吃度微温湯で含嗽する習慣を小児の時から付けるがよろしい。両親毎日自身にやって見せねばいけません」

この記事から、歯ブラシに歯磨き粉や練り歯磨きをつけて、歯を磨くことがまだ普及していなかったと思える。また、1898（明治31）年7月に発刊された京阪神保育会雑誌第1号⁹⁾に幼児発育研究組合報告があり、「歯の注意」として「清潔にすること

冷熱に過ぐる食物をさくこと

乳歯を脱する時期に注意すること

食後歯を嗽く習慣を與ふる事」

となっている。しかし、この雑誌の第18号¹⁰⁾で神戸幼稚園が夏休みに家庭に対して行った注意には「歯を磨き」という言葉が現れている。

「日々沐浴シテ身体ヲ清潔ニシ毎朝歯ヲ磨キ食後及ビ就寝前ニハ必含嗽シ手足ヲ毎ニ洗ヒ（後略）」

ここからは子どもの生活習慣が時代の進歩とともに変化し、改善されつつある様子が見える。

7) 山本武利・津金澤聰廣（1986）日本の広告 日本経済新聞社出版局 166

8) 第1巻第3号には「歯を愛すべし愛すべし 歯を愛すべし愛すべし 歯は生命の関門で 歯は生活の貴官なり（後略）」と長文のコピーがある。

9) 京阪神保育会雑誌第1号 1898雑誌名は当初これであった。

10) 京阪神総合保育会雑誌第18号 1907 44



図-3 第2巻第8号 1905.11.1発行

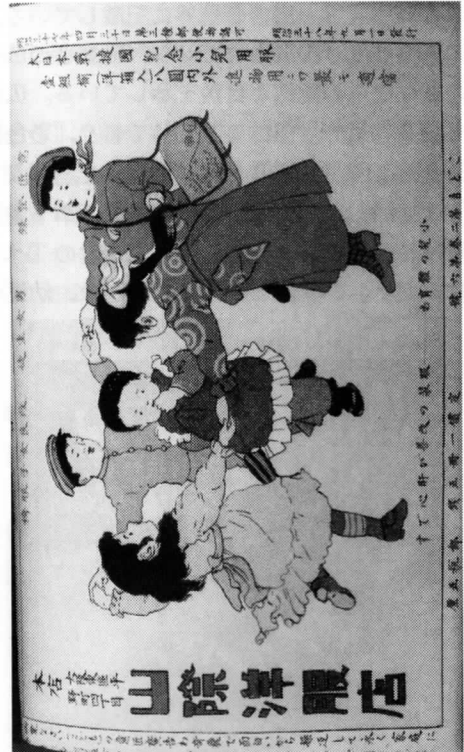


図-4 第2巻第6号 1905.9.1発行

えるのである。

「お伽絵解こども」における広告で歯磨きとともに多いのは洋服，改良した和服，子ども用洋服の広告である。衣服の改良は保育にあたる保母には急務のことであったろう。改良の兆しは京阪神保育会雑誌第4号¹¹⁾の「女学生授業服」の記事にみられる。ここでは保母のために和服を改良する方法と，その応用で幼稚園児の和服を改良することの提案がされている。これに呼応してか第7号¹²⁾に以下の「山際製女子改良服」の記事が掲載された。

「大阪市山際洋服店にては此度女子改良服を製し普く諸教育家の批評を乞ひしが先づ好評の方なり幼稚園保母の方々にても使用の上批評を乞ひ度よし細しき事は広告欄内にあり就て見るべし」

この記事からは，保母の衣服の改良と普及は流行を追うためでなく，保母の仕事着を必要とする保育会全体の問題であったとわかる。

子どもの衣服に関しては，日本の子どもの細紐によって胸をしめつける事は健康に良くないと憂慮している記事が同誌第17号¹³⁾にある。洋服は幼稚園児にとって動きやすい機能的なもので，健康に良いと認識されつつあったのである。「お伽絵解こども」を通して洋服姿の子どもを多く描いているのは，子どもの生活に洋服を普及させることを意図していたからであろう。編集者達は幼児教育界の動向からそのことを認識したのである。「お伽絵解こども」の広告全体の傾向として，広告主の意向とともに当時の庶民の子どもの日常生活に，まだ普及していなくとも，子どもと子どもを持つ家庭に有益と思える商品

11) 京阪神保育会雑誌第4号 1900 18

12) 京阪神保育会雑誌第7号 1901 42

13) 高洲謙一郎「幼児の衛生につきて」1906 (明治39) 年7月『京阪神総合保育会雑誌第17号』



図-5 第3巻第1号 1906.4.1発行



図-6 第4巻第8号 1907.8.1発行

を掲載しようとしていることを感じる(図-3)。とはいえ、広告がともすれば誇大広告になりがちだった時代に、大げさに効能をかき立てたりすることなく、あくまで児童美育会の理念にかなう美しい作品となっていることが印象的である(図-4)。

また「お伽解こども」の広告の大きな特徴がイラスト中心であるという点である。広告の意図を表現するにあたって「絵解き」をしたのである。当時の雑誌広告は圧倒的に文字、言葉によって、情報を伝達して、イラストは添えものに近い分量であった。しかし、「お伽解こども」の奥付の2点を含め、72点を異なる絵によって子どもにわかるように、子どもの興味を引くように描き分けた事は特筆すべきである。

この広告の「絵解き」化は商品のイメージに

看板、電柱、イルミネーションなど次々と大量に広告を展開した森下「仁丹」が発売されたのは1905年2月のことであった。仁丹の広告が「お伽解こども」に初めて掲載されたのは1906(明治39)年8月の第3巻第5号である。その登録商標にはハングル文字で「仁丹」と記されている。仁丹を朝鮮半島に販売しやすくするため入れたと考えられるその文字が、1908(明治41)年8月の第5巻7号から消えている。日本が韓国を併合する過程が進むと、朝鮮語、ハングル文字の使用は禁止されたのである¹⁴⁾。日本が歩んだ歴史を、広告の絵の僅かな変化が絵解きしているのである。又、広告には様々な人種が描かれており、すでに白人には好意的、黒人にはどちらかといえば差別的な傾向が見られるのである。視角に強く訴える広告が、幼児に向けて作られるとき、知識、判断力のない子どもに一

14) イ サンクム(李 相琴) 梨花女子大学名誉教授に伺ったお話を参考にしている。

方的に情報を伝達するわけで、大人の価値観の押し付けをし、偏見を植え付けることになったのではないと思われる。美しく描かれているだけに見逃してしまいがちであるが、繰り返し読まれた雑誌の広告の果たした影響を考えずにはおられない(図-5,6)。

2. 「お伽絵解こども」の広告のことばと絵

「お伽絵解こども」の編集者の一人、久保田小塊(1871.6.27~1939.6.21)は大阪市生まれ。東京で英語を学んだ後、1901年、大阪朝日新聞社に入社、編集部社会係、文芸系の記者であった。「お伽絵解こども」においては主として創作童話、外国童話の翻案、唱歌、時事読物、などを執筆した。雑誌「少年世界」に作品があり、大正11年に朝日新聞社退社後は、児童文学執筆に専念した。久保田は欧米の新聞、雑誌を大人向きのものも、子ども対象のものも日常的に見ることができたわけで、西洋の昔話、マザー・グースとおもわれるわらべうたなど児童文学のみならず、時事的な話題、興味深い出来事などを巧みに翻訳、抄訳して紹介している。明らかに西洋画の模倣と思える図柄の資料は久保田が提供したとも考えられる。

辻村秋峯(1871.3.15~1948.1.17)は大阪堺生れ。画家筒井年峯の門に入り絵を学んだ。1904年、大阪朝日新聞社に入社、久保田小塊と児童美育会を興し、「お伽絵解こども」においては主として絵と文字を担当した。この二人が広告においてイラストとコピーをどのように分担していたのか不明である。絵を担当した秋峯の名は広告の中に時々見られるが一般的にそうであるように、コピー・ライターとしての久保田の名は無い。

裏表紙全体を使った彩色一枚絵の広告はあくまで絵を主体としている。引き札、役者の似顔絵といった近代以前の広告に類するものが日本

にも存在しており、そうした伝統を継承して辻村の絵は洗練されている。浮世絵風 西洋画、写真印刷、ポンチなどさまざまな画法を取り入れ、乳児、幼児、親子、青年、外国人、動物などさまざまな登場人物を配している。絵のみで商品のイメージを十分に伝えている作品が多い。

しかし、

「ベビーは歯磨きの大將であります」(第1巻第2号)

「僕等は此のきれいな歯を大切にせなければ大きくなって兵隊さんになる事ができません」(第1巻第3号)(第2巻第2号)

「日本軍の優れたる事ハ世界に聞こ江てをります ベビー歯磨の評判わウラルの山より高ござります 今後占領シタ所ワ皆サンデ塗テ下サイ」(第1巻第9号)

「旭の御旗は赤い球 仁丹の粒も赤い球 日本帝国万々歳 仁丹万歳万々歳」(第3巻第5号)

などのコピーは、日露戦争時の雰囲気や文字を表現している。誌面においても、日露戦争を背景にした戦争の話は少なからずある。それらがどのように語られ、描かれたかは別の機会に論じたいが、「お伽絵解こども」は全体として大阪朝日新聞社が新聞紙上では対露強硬論の立場であったにもかかわらず¹⁵⁾、京阪神総合保育会の教育者達の「幼児には強いて嬌懐心を煽る必要はない」という姿勢¹⁶⁾を尊重していると考える。広告に見られる軍国調の雰囲気も、その枠内であったと言えるのではないか。幼稚園の保母等現場の教育者に常に取材し、幼稚園児の姿を見ていた辻村達は、子ども本位の雑誌編集という立場を守ることができたのだろう。広告における昔話のアレンジ、ポンチのキャプション等にしても、ユーモアとともに節度を感じるのである(図-7)。「子ども本位、親切、丁寧」をモットーとしていたこの雑誌の姿勢は、コピーの漢字には必ず振り仮名をつけて読みやすくして

15) 朝日新聞百年史編集委員会編 朝日新聞社史 明治編 朝日新聞社 1990

16) 「第12回京阪神総合保育会記事」『京阪神総合保育会雑誌』第14号 1905 32-39



図-7 第6巻第5号 1909. 7. 1 発行

歌川派のなかでも芳年の師、国芳からの流れは近代日本画まで続く浮世絵派である。明治期に活躍した芳年は西洋画の近代的表現を取り入れ、浮世絵派以外の画派にも学び、弟子にも時代を見越して浮世絵師以外の活路を見いだすよう導いた。彼らは、浮世絵画家、日本画家としてだけでなく錦絵新聞、絵入り新聞、教科書、雑誌の挿し絵画家としても活躍した。辻村は東京で年峯に学ぶことで、江戸文化の名残を受け、明治維新後の近代の息吹を感じつつ、著名な浮世絵師達の最後の輝きを見ることの出来た浮世絵派の画家といえよう。辻村は浮世絵の「おもちゃ絵」のように子ども対象にえがいた画法も、風俗画、美人画、風景画、歴史画も新聞の挿し絵も、ポンチも写真も学び、習得できたのである。その辻村の画家としての技量に、ジャーナリストの視点があわったのである。その後社会教育事業に携わり、「コドモアサヒ」の編集者ともなった辻村は、昭和9年から亡くなるまで大阪池田市の私立室町幼稚園の園長でもあった。

いるところにも現れている。

筆者はこれら広告においては、絵を担当した辻村が多分にエディトリアル・アーティストとしての才能を発揮したのではないかと考える。辻村が学んだ筒井年峯は歌川芳年の門人であり、

「お伽解こども」の広告とは、表紙から裏表紙まで編集者の一貫した美意識と子ども本位という児童観の上に構成された絵雑誌に於ける広告なのである。

「お伽解こども」広告一覧

番号	巻号	発行日	広告主	商品名	広告コピー	備考	秋峯の署名の有無
1	1-1	1904.04.03 明治37年	児童美育会 大阪	お伽解こども	時々このページには美しい彩色印刷の広告を載せます 一冊五銭	図-1	
2	1-2	1904.05.03	脇田盛真堂 東京 大阪	ベビーはみがき	ベビーは歯磨の大将であります	時々このページには美しい彩色摺の広告を載せます 図-2	

17	2-5	1905.08.01	高橋盛大堂 大阪	清快丸	各人常備之良劑 最モ善良ナル 懐中用意葉 清快丸の商標に因で皆さんお好きな犬の種類を目にかけます		
18	2-6	1905.09.01	山際洋服店 大阪	男女生徒 改良女子服袴	大日本戦勝国記念小児洋服組揃 (洋箱入) 八円内外進物用ニワ 最モ適当 小児の体育わ服装の改善が肝心です	図-4	
19	2-7	1905.10.01	山際洋服店 大阪	男女生徒服 改良女子服袴	大日本戦勝国記念小児用服		
20	2-8	1905.11.01	ゴム製品商 福井鶴吉大 大阪	むつきいらず	改良衛生ゴム製小便囊 育児衛生わ余程進んで参りましたが襪だけわ今迄よい工夫がないので困って居りましたにこの結構な発明でまことに便益を得ます殊に安心して子供を連れて外出が出来ます (育児衛生ニ熱心ナ某夫人来翰ノ一節)	図-3	
21	2-9	1905.12.01	仁寿堂 大阪	たつた白粉	文明的新化粧 全国到る所に取次あり最寄御求を乞う		
22	2-10	1906.01.01 明治39年	山際洋服店	女子改良服袴 男女生徒服	恭賀新正		有
23	2-11	1906.02.01	洋服商 松本組分店		内外御子ども服店 米国名誉金杯受領		
24	3-1	1906.04.01 明治39年	中村利三郎 大阪	ワシ印乳呑	衛生試験済 海国ノ健児ハこの乳呑ヨリ生ル	図-5	有
25	3-2	1906.05.01	山際洋服店	男女生徒服 女子服袴			有
26	3-3	1906.06.01	松本組洋服店	御子ども服	米国セントルース万国大博覧会名誉金杯受領 出来合ひ上等の品いろいろ		有
27	3-4	1906.07.01	久保田扇舗	浪速扇		コマ絵	有
28	3-5	1906.08.01	仁丹 大阪	仁丹	あさひ みはた あか たま じんたん つぶ 旭の御旗は赤い球 仁丹の粒も赤い球 日本帝国万々歳 仁丹万歳万々歳		有
29	3-6	1906.09.01	小林富次郎	ライオンハミガキ	ライオンハミガキ わ獣類の王/わ齒磨の王		有
30	3-7	1906.10.01	山際洋服店	男女生徒服 女子服袴	大日本戦勝記念小児用服		有
31	3-8	1906.11.01	たかしまや 飯田呉服店		やるとも やるとも ソーラ 雫子ちゃんにも 桃太郎	桃太郎の劇遊び	
32	4-1	1907.01.01 明治40年	山際洋服店	男女生徒服 女子服袴	大日本戦勝記念小児用服	カレンダーになっている	

33	4-2	1907.02.01	森田治郎兵衛	体育運動具教育用器具		サッカーと野球のユニホーム, 用具を示す	
34	4-3	1907.03.01	総代理店中山太陽堂	クラブあらひ粉	帝国化粧品倶楽部謹製 石鹼以上のクラブあらひ粉		
35	4-4	1907.04.01	山際洋服店	男女生徒服 女子服袴	大日本戦勝記念小児用服	写真を使っている	
36	4-5	1907.05.01	小林富次郎 大阪 東京	ライオンハミガキ	RAION.ライオンワぢうらいノ王ノワはみがきノ王	ライオンのスペルまちがっている	有
37	4-6	1907.06.01	飯田呉服店		高島や呉服店		
38	4-7	1907.07.01 明治40年	仁丹 家村大阮堂 大阪	仁丹 ホン、ザッシ、エハガキ	旭の御旗は赤い球 仁丹の粒も赤い球 日本帝国万々歳 仁丹万歳万々歳 かがみ広告 これも又例のない新しい考えです この次にわ何がうつりましょう	かがみ広告 かがみのイラストの中に文字を入れている 奥付の一部分の広告	有
39	4-8	1907.08.01 明治40年	中山太陽堂 大阪支店	クラブ洗粉	唯一エゼント 帝国化粧品倶楽部 高等トイレット ボク、クロンボ クラブアライコデ、アラウ、スグ、シロク ソシテ、キレイニ、キレイニ、ナル	ちびくろサンボからのイラストか? 図-6	
40	4-9	1907.09.01	森田治郎兵衛 大阪	体育運動具教育用器具	体育運動具 教育用器具 製造販売業		
41	4-10	1907.10.01	小林富次郎 東京 大阪 合名会社 十合洋服店 大阪	ライオンはみがき	ぢうらいの王 東京 小林富次郎 はみがきの王 大阪 小林富次郎 ライオン raion はみがき	十合の半頁の広告	
42	4-11	1907.12.01	中山太陽堂 大阪	クラブ洗粉	帝国化粧品倶楽部 総代理店 CLUB Washing Powder 高等トイレット クラブ洗粉 Toilet Extract		
43	5-1	1908.01.01 明治41年	山際本店 山際支店	男女生徒服袴 海軍型小児服 改良女子服 改良小児服			
44	5-2	1908.02.01	仁丹 大阪	仁丹			有
45	5-3	1908.04.01	小林富次郎 東京 大阪	ライオンハミガキ	ライオン ハミガキ		
46	5-4	1908.05.01	森下博薬房 大阪	仁丹	消化と毒けし 懐中良薬 すみを持って平にまわしてごらんさい	写真とおもちゃ絵風のカットのくみあわせ	

47	5-5	1908.06.01	総代理店 中山太陽堂 大阪支店	クラブあらひ粉	帝国化粧品倶楽部謹製		
48	5-6	1908.07.01	総代理店 中山太陽堂 大阪支店	クラブあらひ粉	CLUB Washing Powder 高等トイレット／クラブ洗粉 Toilet Extract 帝国化粧品倶楽部謹製	大阪の電車の路 線図	
49	5-7	1908.08.01	仁丹	仁丹	消化と毒消し (1)凸坊わいろいろ沢山たべ てポンポンが大きい(2)ア> 痛い痛い泣き出した(3) ジンタン服んだら直ぐ治って 大ごきげんウレチイナ ウレ チイナ	ポンチ	
50	5-8	1908.10.01	山崎栄三郎 東京 山崎兄弟商 会 大阪	ゼム	懐中良薬		
51	5-9	1908.11.01	森田治郎兵 衛	体育運動会 教育用器具	製造販売業 次郎の球 次郎が余り面白そうに遊んで いるのでポチ(犬の名)も面 白がって次郎の球をくわえて 走りました 次郎わ追かけて「こらポチよ、 ポチポチポチ…」		有
52	5-10	1908.12.01		仁丹	人間界に響き涉った仁丹の評 判をきいて 動物園でも仁丹 結構と第一番に象君がたべて ニコニコ顔 年末年始の進 上ものにしようよ 猿君も鶏 君もいいました めでたしめ でたしめでたし		
53	6-1	1909.01.01 明治42年	山際本店 山際支店	男女生徒服袴 海軍型小児服 改良女子服 改良小児服			有
54	6-2	1909.04.01	小林富次郎 東京 大阪	ライオンはみが き	わ歯磨の王／わ獣類の王 ライオンはみがき		有
55	6-3	1909.05.01	仁丹本舗 森下博薬房 大阪	仁丹	消化と毒消し 五月節句わ男児の節句／ジン タン服むから坊やわ強い/坊 やわ加藤清正だ		有
56	6-4	1909.06.01	参天堂薬房	小児用 大学目薬	大阪北浜(ヘブリン丸元祖本 家) 小児の眼病には小児用 大学目薬が少しの刺痛もな く すぐ治る	写真と絵のくみあ わせ	

57	6-5	1909.07.01	ゼム	山崎栄三郎 東京 セム西拡張部 大阪	懐中良薬 モシモシ亀ヨ亀サンヨ／世界 ノ中ニオマエホド歩ミノノロ イモノワナイト兎ワ自慢ノ耳 ヲ動かシテ亀ト競争ヲシマシ タガ兎ワ亀ニ負マシタ亀ワ強 健筈デスゼムヲ服デイマシタ	「うさぎとかめ」の パロディ 図-7	有
58	6-6	1909.08.01		仁丹	消化と毒けし 海水浴や水泳をするにわは 非仁丹を服まねばなりません		
59	6-7	1909.10.01	小林富次郎 東京 大阪	ライオンはみが き	快活な人わこどもの時から歯 を大切にして皆ライオンはみ がきを使うたのです		
60	6-8	1909.11.01	仁丹本舗 森下博薬房 大阪	仁丹	消化と毒消し／頭にシャツポ ン／腰にサアベル／口にわ赤 かいジントタンたべてブーカ ブーカ／ブカドンドン		
61	7-1	1910.01.01 明治43年	仁丹本舗 森下博薬房	仁丹	消化と毒消し○笑へばかち○ 怒ればまけ○黒ん坊は皆にお ぢぎ○半分半分わ一巡りぬけ る	おもちゃ絵	秋峯 考案
62	7-2	1910.02.01	仁丹本舗 森下博薬房	仁丹	紅い球わナアニ／国旗 仁丹		有
63	7-3	1910.03.01	小林富次郎	ライオンはみが き	ライオンはみがきの王／わじ うるいの王		
64	(7-4)	1910.04.01				未見	
65	7-5	1910.05.01	仁丹本舗 森下博薬房 大阪	仁丹			有
66	(7-6)	1910.				未見	
67	(7-7)	1910.				未見	
68	(7-8)	1910.				未見	
69	7-9	1910.11.01	河内国植松 長壽氏	小児天中	どこのくすりやにでもありま す 丸薬でのみよい		有
70	8-1	1911.01.01	仁丹本舗 森下博薬房	仁丹	クルマニツダ タカラモノ イヌガヒキダス エンヤラヤ サルガアトオスエンヤラヤ キジガツナヒクエンヤラヤ	桃太郎ののぞき節	
71	8-2	1911.03.01	森下博薬房	仁丹	日本一の仁丹太郎ワコンナモ ンジャ	桃太郎のパロディ	
72	8-3	1911.05.01	本舗 支店 河内国植松 長壽氏	小児天中			
73	8-4	1911.08.01		小児天中			
74	8-5	1911.11.01	河内国植松 長壽氏	小児天中		金太郎のイラスト	

3. 「お伽解きこども」の広告一覧¹⁷⁾ (前掲の表参照)

まとめ

「お伽解きこども」の画家であり、編集者であった辻村秋峯は日本画家としては名を残さなかったが、新しい時代の新しい社会に生きる子どもに向けて、美育の精神を土台に絵雑誌「お伽解きこども」の絵を描いたのである。久保田も大阪朝日新聞の編集部社会係、文芸系のジャーナリストであり、児童文学者であった故に、二人はようやく普及し始めた幼稚園における保育内容にそった絵本こそ、新しい絵本につながるものと認識した。そして幼児教育の改良は社会の改良であると認識し、新しい時代に成長する幼児にこそ、さまざまなお話にこめた日本と世界の情報を絵本にして伝えたいと考えたのであろう。そこに載せられる広告も読者にとって利益になる、おもしろいものであるべきだと考え創作したのであろう。筆者は一連の広告は保母、教師が談話の教材としても活用でき、家庭には話題を提供し、子どもが興味を持てる情報を提供する、社会教育的要素のある「絵解き」広告であったと考える。誌面同様、強い影響を読者に及ぼしたと思われる広告を絵本・絵雑誌の史的研究のなかでこれからも見つめていきたい。

参考文献

- 村川京子 1996 絵雑誌「お伽解きこども」と明治期の幼稚園 日本保育学会第49回大会研究発表論文集
高桑末秀 1994 広告の世界史 日経広告研究所
鳥越信 市毛愛子 斎木喜美子 村川京子 1995 絵雑誌「お伽解きこども」について 日本乳幼児教育学会第5回大会研究発表論文集
恵俊彦編 1993 月岡芳年の世界 東京書籍
東武美術館編 1994 浮世絵の子どもたち 東武美術館
辻村秋峯 1912 「社会とこども」『京阪神三市保育会雑誌』第28号
山本武利 1984 広告の社会史 法政大学出版局

山本武利・津金澤聰廣 1986 日本の広告 日本経済新聞社出版局

辻村明郎氏には辻村秋峯氏についてお話を伺い、貴重な資料を見せていただきました。記して感謝申し上げます。

17) 実際に見ることができなかったものが4点ある。